



対話

町政懇談会の模様を振り返る

佐藤町政発足後、初となる町政懇談会は昨年10月から11月にかけて、9会場で開かれた会場では、佐藤町長から町政報告がなされ、参加者と活発な意見を交わした

約1カ月で9会場 活発な意見を交わし合った

10月25日の小長井集会所からスタートした佐藤町政初の「町政懇談会」は、約1カ月間かけて、全9会場をまわった。

各会場には、町民、議会議員、町職員など延べ396人が参加し、地区の現状やこれからのまちづくりのあり方などについて意見を交わし合った。

各区からは町の施策に関することから日常生活に関する身近なことまで、さまざまな質問や意見が投げかけられた。

代表的なものとして▼情報通信基盤（光ファイバ網）整備事業について▼いやしの里診療所の今後▼人口の減少・定住対策の進捗よく▼小中学校の統廃合

や複式学級・川根高校の存続について▼道路・バイパスなどの整備状況▼観光施策▼茶業をはじめとする農林業の対策などについて多数の意見が寄せられていた。

その他にも▼区集会所などの管理に関すること▼増加傾向にある鳥獣被害の対策▼本町は今後合併をするのか▼地名保育園や本川根北小学校の施設活用方法など、地域に密着した課題についての質問も見られた。

最も多かった質問・意見は 情報通信基盤整備事業

各会場の開催記録を振り返ると、今、住民の皆さんが何に關心を持っているのか、どんなことに不安を感じているのかなどが浮き彫りになってくる。今回

人口の減少に歯止めを

各地区とも、少子高齢化、人口減少に対する不安感が増している様子がうかがえた。

人口の増加を図るための対策、定住の対策を求める意見が多数見られた。代表的なものに「就職口が少ないため、若者が外へ出てしまう。若者が町内に残りたくなくなるような対策を」「人口が増えなければ町の存続も活性化もない。交流や定住対策は進んでいるのか」「高齢者のみの世帯や独居世帯、空き家が増えている。長期的視点に立つて対策を考えて」「人口増加のビジョンを示して」などが見られた。

町では「地域の元気を再生させるためには、定住人口、移動人口（ビジネス関連など）、交流人口などの増加を考える必要がある。定住はもちろん、交流人口を増やすことが地域の活性化につながる」と考えて

いる」と答えている。

いやしの里診療所の今後

地域医療を支えていた「いやしの里診療所」の今後について心配する声もあった。

「診療中の患者さんは病院を替える必要がある」「若者の定住のためにも、近くに医師がいないと不安ではないか」といった意見が多かった。

町では「1日も早く後任の医師が見つかるよう努力したい」と答えている。

小学校統廃合などについて

中川根南部小学校の複式学級（23年度から）に関する質問が見られた。

「今後、小学校の統廃合も視野に入れるべきでは」という質問に対して町は、「将来的には考える必要がある。しかし現時点では、複式学級を支援することで、より良い教育環境の充実を考えた

の懇談会では、情報通信基盤整備事業に対する質問や意見が最も多く、どの会場でも関心の高さがうかがえる結果となった。「告知放送」端末機は本当に高齢者に使えるのか「技術の発達を待つべきでは」「機器類の更新時に、またお金がかかる」などの反対意見がある一方で、「情報化社会の中で本町が陸の孤島にならないように」「高齢化社会に対応するため早急な整備を求めたい」といった賛成意見も見られた。情報通信基盤整備事業については、数回にわたって実施されている検討委員会（有識者、町民、国・県担当者、町議会議員などで構成）で議論を重ね、事業の目的やその効果などについて、理解を深めていく予定となっている。

い」と説明している。

この他にも「北小学校施設の処遇」や「川根高等学校の存続」「中学校の統廃合について」など、教育関連の質問が多数見られた。本町の次代を担う子どもたちに関する課題であるだけに、慎重かつ積極的な議論を求める声が多く聞かれた。

小長井～奥泉の9カ所で 延べ396人が耳を傾ける



開催日	会場	人数
10月25日	小長井集会所	61人
10月27日	山村開発センター	41人
11月8日	中川根南部小体育館	37人
11月10日	千頭東区会館	47人
11月16日	藤川集会所	48人
11月18日	本川根中学校格技場	29人
11月22日	徳山コミュニティ防災センター	34人
11月25日	地名集会所	39人
11月30日	奥泉集会所	60人

※町政懇談会全体の参加者数（延べ人数）は396人。うち男性は330人、女性は66人だった。

▶町政報告に耳を傾ける住民の皆さん。
奥泉集会所には60人が参加した。



情報通信基盤整備事業住民説明会は昨年8月から10月にかけて実施された。



いやしの里診療所は平成19年に開院。現在、後任の医師を捜している。



交流人口の増加が町の活性化につながると町では話している。



子どもたちのすこやかな成長を見守るため最適な教育環境が求められている。